

二〇二一年五月二五日（須磨離宮公園参加者一八名）

息とめしごと大噴水止まりけり	ひかり
四阿に通ふ磯の香花菖蒲	"
万緑の山に白きはマンシヨン群	"
池統ぶるかに暮叫びけり	"
風の向き変はり噴水乱れけり	満天
離宮へと薔薇の小道を辿りけり	"
大噴水飛行機雲へ届きけり	"
噴水の向かうにライバル句帳持つ	"
待ちくれし友の笑顔や若葉風	明日香
噴水の乱舞に憩ふ車椅子	"
風に揺れ噴水の秀の自在なり	"
吸ひ込まれさうな勢ひ大噴水	せいじ
遠山のごと鳥影や夏霞	"
尖塔のごとき威風や大噴水	"
滴りの真珠びかりに女神像	菜々
白南風や鏡びかりの青畝句碑	"
白堀は離宮の名残松落葉	"
ばら愛でる人みな優し顔をして	かれん
ひとときを我も貴婦人ばらの庭	"

碑面に大噴水の映りをり	"
涼風に吹かれ存問青畝句碑	わかば
葉の揺らぐ蔭に河骨黄を点ず	"
青楓揺れて日の斑を撒き散らす	つくし
一望の明石海峡青葉潮	"
薔薇園に英国の空想ひけり	うつき
車椅子同士の会釈薔薇の園	"
大噴水沖ゆく船は水平に	有香
亀甲の石垣涼し離宮道	"
噴水の風にリズムの変わりけり	百合
水に立つポセイドン像風薫る	"
噴水の吹き上ぐるたび天仰ぐ	よし子
噴水の息とめしとき空映る	"
小噴水大噴水と息そろふ	あさ子
噴水の広場飛沫をさけられず	"
噴水に見とれて句帳濡らしけり	宏虎
海見ゆる丘の上なる句座涼し	はく子
翠巒を屏風にばらのまっさかり	"

吟行句会みの選

二〇二一年五月二五日（須磨離宮公園参加者一八名）